

「主イエス、洗礼を受けられる」

2021年09月22日

そしてすぐ、水から上がっているとき、天が裂けて、霊が鳩のようにご自分の中へ降って来るのを御覧になった。すると、「あなたは私の愛する子、私の心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。(マルコ福音書1章10節～11節)

洗礼者ヨハネがヨルダン川で、罪の赦しを得させる悔い改めの洗礼を受ける運動は、全イスラエルを揺るがす大宗教覚醒運動になっていった。洗礼は、体を水の中に沈め、古い自分の罪に死に、水から引き上げられ神に向かう新しい自分になる新生の儀式である。当時、洗礼は異教徒がユダヤ教に改宗する時に執行された。ファリサイ派の人々は、異教徒を改宗させることに熱心であった。マタイ福音書23章15節に、「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたがた偽善者に災いあれ。あなたがたは、改宗者を一人つくろうとして、海や陸を巡り歩くが、改宗者ができる、自分より倍も悪いゲヘナの子にしてしまう」と書かれている。主イエスは、ファリサイ派の人々は熱心に異教徒を改宗させようとしているが、改宗した異邦人は、ファリサイ派の人々より一層頑固な律法主義者になっていると、批判している。当時の世界は多宗教社会であったが、徹底した一神教を説き、倫理的に清潔なユダヤ教は、異教徒たちに信頼され、ユダヤ教への改宗者が多かったことも確かである。使徒言行録によると、パウロは常に、ユダヤ教の会堂（シナゴグ）で宣教を始めているが、その会堂にはユダヤ教に改宗した異邦人が多くいたことが記されている。フィリピの宣教で、最初に洗礼を受けたリディアはティアティラ市出身の異教徒であったが、ユダヤ教に改宗し、彼らの川岸の祈り場に行っている。そこで彼女は、パウロの説教に心を開かれ、クリスチャンになった。

洗礼は異教徒からユダヤ教に改宗する時に行われ、イスラエル人は、信仰の父アブラムの子であるから神への信仰に生きることは自明なことで、洗礼など受ける必要がないとされていた。ところが、洗礼者ヨハネは、信仰に既得権はないと、イスラエル人も洗礼を受け、神に向かって生まれ変わることを説いたのである。ヨハネの衝撃的な説教は人々に感銘を与え、宗教覚醒運動は大きな広がりを見せた。その頃、主イエスは故郷ナザレを離れ、ヨハネの洗礼運動を認め、彼から洗礼を受けられた。ヘブライ書4章15節に、「この大祭司（キリスト）は、私たちの弱さに同情できない方ではなく、罪は犯されなかったが、あらゆる点で同じように試練に遭われたのです」と書いている。「罪は犯されなかった」ならば、洗礼を受ける必要はないということになる。主イエスの無罪性は、ヘブライ書著者の信仰告白で、要は、大祭司イエスは、人間と同じになり、同じ試練を受けられたと述べている訳である。主イエスの洗礼は、洗礼を受けた多くのイスラエル人の一人になられたということである。

ただ、水から上がられると、「天が裂けて、霊が鳩のようにご自分の中へ降って来るのを御覧になった。すると、『あなたは私の愛する子、私の心に適う者』と言う声が、天から聞こえた」ということが、他の人々とは全く異なっていた。「天が裂けて」という言葉は黙示文学的な表現である。裂けた天から霊が鳩のように主イエスの中に降って来た。そして、主イエスは、神の愛する子（御子）であると同時に、神の心に適う者（僕）であるとの声が天から聞こえた。主イエスは、神の意志を担い、神の思いを現わす者として、神の子とされた。神と主イエスが一つに結ばれているということが確認された。主イエスは洗礼を受けられた時、神を啓示する者としての出発点に立たれたのである。